

令和4年度第1回島田市総合教育会議議事録（概要）

日時	令和4年6月27日(月)午前10時05分～午前11時10分
会場	島田市役所 第3委員会室
出席者	染谷絹代市長、山中史章教育長、磯貝隆啓委員、 柳川真佐明委員、高杉陽子委員、原喜恵子委員
欠席者	
傍聴人	21人（市職員も含む）
説明のための出席者	今村市長戦略部長、中野教育部長、中村戦略推進課長、 鈴木教育総務課長、村田学校教育課長、神谷学校教育課主席指導主事、 小野戦略推進課長補佐、教育総務課廣田係長、 学校教育課興津係長、学校教育課伊藤係長
議事	(1) 令和6年度開校 特認校について
まとめ	令和6年度に開校する特認校については、最終的には、教育委員会定例会において決定する。 方向性としては、登下校の時間等も含め、子どもの負担が少ないと考えられる大津小学校がいいのではないかと。また、通学にかかる費用については公費負担とする。
	開 会 午前10時05分
今村市長戦略部長	それでは、ただいまから令和4年度第1回総合教育会議を開催いたします。はじめに染谷市長から御挨拶をいただきます。
染谷市長	皆様、おはようございます。 遅参いたしましたこと、まずもってお詫びを申し上げます。 座って御挨拶させていただきます。 これまで本市の教育大綱をはじめ市の教育につきまして、皆様方と様々なテーマで意見交換をしてまいりました。 グローバル化、DXの進展など社会情勢の変化に伴い、教育を取り巻く環境もめまぐるしく変化してきています。また、子どもの数の減少、不登校やいじめ、貧困など子どもに関わる課題は、年々複雑化・多様化しています。こうした時代の変化や課題を的確に捉え、子ども一人ひとりが健やかに成長し、のびのびと学べる、子どもにとってよりよい環境を整えていかなければならないと思っております。 この総合教育会議の場において、皆様と課題を共有し意見を交わすことを通じて、島田の教育を一層充実させていきたいと考えております。 さて、本日は、令和2年度11月に取り上げた特認校をテーマとさせていただきます。ぜひ、忌憚のない御意見、御提案をしていただきますようよろしくお願い申し上げます。
今村市長戦略部長	ありがとうございました。
山中教育長	続きまして、山中教育長から、御挨拶をいただきたいと思います。 皆様おはようございます、教育長の山中でございます。

本日は特認校制度をテーマに、皆様から御意見を出していただくのですが、本日を迎えるまでの経緯について、少し話をさせていただきたいと思っております。

平成15年度より、島田市内に住む子どもたちで、希望する児童がいれば、学区の指定を外して伊久美小学校に通うことができるという小規模特認校制度ができ、運用されてまいりました。

本市におきましては、この制度の指定を受けていた伊久美小学校が、令和6年3月をもって閉校いたします。今までの特認校制度を継続することを前提に、実施校を他校に変更したいと考えております。

その理由といたしましては、伊久美小学校全校児童の約30%が特認校を利用してきたという実績があるということ。また、地域の自然を活用した体験学習や地域との交流活動を継続してほしいという要望があったからです。

令和2年11月19日に実施しました総合教育会議では、以下の3つのことが確認されております。

- 1 特認校制度は残したほうがよい。
- 2 小規模の状況を満たす学校は、川根小と大津小である。
- 3 令和4年度に実施校を決定し、令和5年度は交流活動を実施する。

となっております。

以上を踏まえた上で、多くの御意見をいただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

ありがとうございました。

今村市長戦略部長

[議 事]

今村市長戦略部長

それでは、これより議事に入りますので、以降の進行につきましては、染谷市長にお願いしたいと思います。市長よろしくお願いいたします。

染谷市長

それでは、次第にしたがいまして、議事を進めさせていただきます。

本日の議題は、「令和6年度開校 特認校について」となります。

まずは、本日の配付資料1、2について、学校教育課から説明を求めます。

村田学校教育課長

令和6年度開校の特認校について説明いたします。資料1を御覧ください。

まず、現在の小規模特認校の状況を説明します。1を御覧ください。

これまで島田市では学校選択制のうち特認校制を活用し、平成15年度から伊久美小学校を小規模特認校として運用してきました。

そして、島田市立小中学校再編計画に基づき、令和6年度以降、実施校を、伊久美小から他校に変更して実施を継続することとなりました。

さらに、令和2年度11月に実際された総合教育会議における協議を経て、候補校を川根小又は大津小とすることとなりました。

続いて、特認校の目的、選定の要件、候補校となった経緯、2校の特色について説明いたします。

まず、このたびの特認校を配置する目的をお伝えします。

特認校配置の目的は、豊かな自然環境の下で学習したり、体験学習を行ったりしている市内学校において、他地区から就学を希望する児童にその機会を提供するというものです。

候補校に選定の要件は、3点です。

- ・比較的小規模校で個に応じた指導・支援が期待できる。
- ・地域からの支援が得られ、地域との交流活動が期待できる。
- ・地域の自然を生かした特色ある活動が推進されている。

これらの要件を満たす、市内小学校として2校が挙げられました。

続いて、候補校で行われている特色ある活動をお伝えします。

川根小学校では、教育活動としてハイキング、手もみ茶体験、陶芸教室などが行われております。また、パラグライダー、クラフト、写真クラブなど、地域の方々を講師に招いてクラブ活動を行っております。

大津小学校においては、大津谷川での生き物探検、城山や千葉山での地域探検、お茶摘み、田植えなどの活動を行っております。クラブ活動においても、昔の遊び、茶道など地域の方々を招いて活動しております。バードウォッチング、シイタケの菌打ちなども地域の方々に協力をいただいで活動しております。

どちらも地域の方々からの協力を受けながら、学習や体験活動を行っています。

3番、続いて両校の児童数の推移を説明します。(1)を御覧ください。両校とも、入学予定児童は年々減少しております。伴って、全校児童数も減少していくことが予想されます。

続いて4番の通学方法、時間等について説明いたします。児童が公共交通機関を使用して登校する場合には、川根小学校の登校については、多くの児童が、②のコミバス伊久身線を多く利用するものと思っております。島田駅を7時に出発し、山の家まで向かいます。そして、山の家から学校までスクールバスで移動して、7時50分に到着します。島田駅から、おおむね50分程度となります。

大津小については、(1)のコミバス大津線の利用児童が多いと思われれます。7時37分島田駅発、7時47分落合春日神社到着となります。島田駅から、おおむね10分程度となります。

下校については、両校とも学年や曜日によって違いがあります。

川根小については、①のコミバス川根温泉線と②のコミバス伊久身線を利用するものと思われれます、50分程度となります。

大津小については、(1)のコミバス大津線、(2)のしずてつジャストライン金谷島田病院線が予想されます。(2)の場合は、総合医療センターまで、徒歩で移動することとなります。

なお、公共交通機関による通学費については市が補助をしております。

5番のまとめに入ります。

5の(1)に両校の特徴を比較した内容を掲載いたしました。両校の違いは、児童数、登校時のバスの乗車時間、方法、島田駅からの距離となります。

(2)には、伊久美小での現在の対応を記載しました。

卒業後の進路については、候補校学区の中学校、または地元学区の中学校に進学することができます。

また、下校時にバスが間に合わないときには、公用バスで対応しております。

では、資料2を御覧ください。

候補校の選定に向けて、前年度、川根小、大津小、伊久美小の各校の保護者及び地域への説明会を開催し、合わせて保護者へのアンケートを実施いたしました。

説明会では、参加者より地区の児童数の減少を心配していること。特認校を受け入れることで、地域の活性化が期待できること。支援員の増員や登下校の交通手段が少なく、配慮が必要であることなどの意見が出されました。

また、両校及び伊久美小の保護者を対象にアンケートを実施しました。候補校2校の保護者の方のアンケートでは、川根小については、102人中73人が賛成、反対3人、判断に迷うが26人。大津小については、123人中79人が賛成、反対5人、判断に迷うが39人の結果となりました。

賛成の主な理由としては、子どもの減少から自校存続の意味でも他地域からの受け入れは賛成する。地域の良さを感じ広めてもらうことが期待できる。他地域の児童と接することで、新たな人間関係や視野の広がりが期待できるなどが挙げられました。

反対の理由としては、通学に時間がかかり、子ども、保護者への負担が考えられる。少人数でも地域の子どものみだけで学校生活を送りたい。個に応じた指導支援が継続できないなどが挙げられました。

判断に迷う理由としては、利用する側のメリットはあるが、自校でのメリットは感じられない。通学距離が遠く登下校に時間がかかる。今の環境が変わることへの不安があるなどが挙げられました。

今後の要望として、コミュニティバスの利用について配慮してほしい。通学費用を保護者の負担にならないようにしてほしい。決定後は、受け入れる側の児童が、不安にならないよう説明してほしいなどが挙げられました。

続いて、5番、伊久美小学校保護者のアンケートの結果です。アンケートは、伊久美小全ての保護者を対象としました。

川根小が適当と答えた方が7人、大津小が適当と答えた方が6人、判断に迷うが14人。

意見として、川根小については、個に応じた指導、支援ができる。自然が豊かである。伊久美小の環境に近いなどが挙げられました。大津小については、通える距離にある。特色ある活動に魅力を感じるなどが挙げられました。

判断に迷う理由として、どちらも自然環境が多い、地域との交流活動が期待できる。どちらも通学距離に不安を感じるなどが挙げられました。

また、現在特認校を利用している保護者のみのアンケートを取ったところでは、特認校を利用すると明確に答えた方は、ゼロ人。一小に行くと言った方が3人、地元の学校の小学校に行くと言った方が1人、まだ

決めていないと答えた方が5人です。

意見としては、複数校を特認校にしてほしい。個に応じた指導支援を継続してほしい。受け入れ校の児童に負担がかからないようにしてほしいなどが挙げられました。

染谷市長

ありがとうございました。ただいま、学校教育課からの説明がありました。

それではこれから意見交換を始めていきたいと思います。まず、各学校の特色や通学方法、あるいは通学費用などの視点から、この特認校について教育委員の皆様の御意見をお聞かせください。

どなたか発言していただける方はいらっしゃいますでしょうか。先ほどの説明に対する御質問でも結構ですので、挙手をお願いしたいと思います。

磯貝委員、お願いします。

磯貝委員

事務方に、先ほどの資料の質問をしたいと思います。資料1の2ページです。

まず、登校時間のところ、大津小学校ですけれども、島田駅7時37分から落合春日神社に7時47分と記載があります。落合春日神社というのは、大津小学校まで子どもの足でどれぐらいと考えていらっしゃるのかということが一つ。

それと、帰りのバスです。コミバス大津線、(1)ですけれども、大津小学校15時14分から島田駅15時49分となっています、これは35分かかっています。その2行下なのですが、大津小学校16時44分から島田駅16時56分、これは12分です。

コミバスなので、ぐるっと回ってくるのでこのように違っているのでしょうか、その2点を教えてください。

学校教育課、お願いします。

染谷市長

村田学校教育課長

まず、1点目の落合春日神社から学校ですけれども、比較的近いところであって、5分から長くても10分ぐらいの距離にあります。

2点目のコミバス大津線の時間の違いですが、時間によってルートが違うために、かかる時間が変わります。

よろしいですか。

はい。

ほかにはいかがでしょうか。

染谷市長

磯貝委員

染谷市長

高杉委員

現在、小規模特認校として伊久美小学校に通っている方は、どの地域の児童が何人いるか。その中で放課後児童クラブを使っている子どもの人数が分かりましたら教えてください。

事務局、お願いします。

染谷市長

学校教育課伊藤係長

学校別で申し上げます。一小については、4人です。三小については、2人です。四小が2人です。伊太小が2人、神座小が2人、六合東小が1人です。以上、13人です。

染谷市長

第一小学校が4人、第三小学校が2人、第四小学校が2人、神座小学校が2人、六合東小学校が1人、伊太小学校が2人ということで、計13人でよろしいでしょうか。

<p>学校教育課伊藤係長 染谷市長 村田学校教育課長</p>	<p>はい。 放課後児童クラブは、まだ聞いていませんね。 放課後児童クラブの利用者の数については、把握しておりません。申し訳ありません。</p>
<p>染谷市長 柳川委員</p>	<p>はい。では、柳川委員、お願いします。 先ほどの磯貝委員と同じような質問ですが、資料1の2ページ、通学方法について少し確認をさせてください。 一番上の川根小学校の①、これについては基本的には、8時までには間に合わないということでしょうか。 それと、②のコミバスとスクールバス、これを利用するためには、(2)の費用のところ、車の用意と人件費等々で400万以上の費用が発生します。ですから、川根小学校は、①がないので、②もしくは③という認識でよろしいでしょうか。</p>
<p>村田学校教育課長</p>	<p>おっしゃるとおりで、①については考えられないため、②と③になります。</p>
<p>柳川委員</p>	<p>なおかつ、②を選択する場合は、かなりの費用負担が生じます、ということですね。 3ページ目に、(2)の伊久美小学校での対応の一番下に、下校時に時間が合わないときは、公用バスで対応していると書かれておりますが、これについて現実的に、今現在、年間どれぐらいの費用がかかっているのかが分かるようでしたら教えてください。</p>
<p>学校教育課興津係長</p>	<p>現在、伊久美小学校で公用バスを使った下校の回数について、しっかりとした数字を今持っていないのですが、大体の感覚としては、月1、2回ぐらいという認識でおります。 1回当たりの費用につきましては、市のバスの包括業務委託の中で運行をお願いしているもので、1回いくらというものは無いと思っております。</p>
<p>柳川委員 染谷市長</p>	<p>ありがとうございました。 御質問等は、ほかにございますでしょうか。</p>
<p>原委員</p>	<p>原委員、お願いします。 伊久美小の児童は今現在、コミバスを利用していると思うのですが、朝は何時のバスに乗っているか、現状を教えてくださいたいです。 それからもう一つ、資料2の4ページの一番上の特認校決定についての意見、要望です。最初に、複数校特認校としてはどうかという要望がありますが、これはもう考えられないと、とにかく1校に絞るということでよろしいでしょうか。</p>
<p>染谷市長 村田学校教育課長</p>	<p>今の2点について、学校教育課長。 現在、伊久美小の子どもたちは、ここにありますように7時の島田駅発のバスに乗って通っております。 それから、2つ目の複数校を特認校とすることについては、現在考えておりません。</p>
<p>染谷市長</p>	<p>2つを特認校にすることを考えていない理由についても、少しお話をください。</p>

村田学校教育課長	複数校というと、様々なところで子どもたちが通うことになるわけです。特認校ということを考えて、その制度について一つのところで集中していきたいというところがありまして、あまり色々なところということとは考えておりません。
山中教育長	伊久美小学校が、小規模特認校制度の認定をされたときのいきさつを考えますと、自然体験ができるような場所ということで、島田市において特別な場所といったところで小規模特認校制度が行われました。今回も複数ではなく、一つの学校に絞ることによってその特色を生かしていくといった考え方で、一つの学校に絞るといふことへの考えです。
染谷市長	ありがとうございました。
原委員	原委員、よろしいでしょうか。
染谷市長	ありがとうございます。
磯貝委員	では、いかがでしょうか。質問は一通り終わったようですので、御意見等がありましたらお話をいただければと思います。 川根小学校と大津小学校のどちらを特認校にするかというような御意見でも結構です。それから、通学の費用は、これまでは公費負担でございます。今後も公費負担でいくかどうかということについても、御意見がありましたら、お話をいただければと思います。いかがでしょうか。 磯貝委員、お願いします。
磯貝委員	私は、先ほど原委員もおっしゃっていましたが、可能であれば特認校は複数があったほうが、利用する側としてはいいのではないかなとは、基本的には思っていました。 ただ、事務方からお話があったとおり、一つに絞っていくということですので、あえて言えば、私は大津小学校がいいかなと思います。 それは、この川根小学校、大津小学校の両校の特徴ですね。川根小学校はパラグライダーのクラブ、押し花クラブ、米づくりやお茶体験、色々なものがあります。大津小学校も、愛護林活動とか、毎月学校だよりを見ると、バードウォッチングがとても盛んなのですね。ここもお茶摘み体験などもありますし、それぞれ特徴としては甲乙がつけがたいというふうに思います。 ただ、両校とも今の伊久美小学校から比べると、規模がやや大きくなるものですから、そこら辺がどうかという心配はあります。 一番私が思ったのは、通学時間が、やはり川根小学校は1時間ぐらいかかってしまうということです。大津小学校は、先ほど来の資料等を見ても、駅から10数分で到着して学校まで、10分くらいでそのバス停から行けるということです。自然と大津小学校がいいのかなと感じました。
染谷市長	ありがとうございました。
高杉委員	ほかに御意見はいかがでしょうか。高杉さん、ありますか。もしあれば、お願いします。 資料2のアンケートの中で、3ページ目の下の方に特認校利用者限定で、令和6年度の進路で利用すると答えた保護者がゼロだったということと、まだ決めていないという回答が5人だったところをみると、

今までと今後の進め方を考えないといけないと思いました。

まだ決めていないという御家庭には、これから広報をしていただいて、学校を見に行くとか、そういったことを地道にやっていただけたらなと思います。

それから子ども中心、保護者中心に決定していただきたくて、先ほど放課後児童クラブの人数を質問したのですけれども、例えば、川根小学校になったとき、大津小学校になったとき、それぞれの学校で放課後児童クラブを使うときやPTA活動をするときに、子どももちろんですが、保護者も行き来をするので、なるべく負担にならないようなことを考えて決めていただきたいと思います。

染谷市長

ありがとうございました。

それぞれの学校の放課後児童クラブを使うとなると、放課後児童クラブは親が迎えに行くことが原則なので、川根小学校の場合ですと、親の仕事が終わってから川根まで迎えに行かなければいけないということが一つ課題になるかなとは思っています。

ほかには、いかがでしょうか。原委員、お願いします。

原委員

私個人としては、川根小学校の入学予定児童数を見ていくと、大変人数が少なくなって小規模校になって、ゆくゆくは複式になる可能性もあるのではないかと考えると、少しでも児童が増える方向でいってくれとありがたいなという思いが正直あります。

自然もたくさんありますし、今の伊久美に近いのは、川根かなという思いはあります。しかし、ここに通学してくる小学校1年生からの体力等を考えたときに、1時間かけて通学が可能かどうかというのが、非常に心配になるところです。

もし、島田駅からスクールバスを出していただいて、40分か50分で行ければいいかもしれませんが、現状は川口で乗り換えをして、バス2本を通じていかなければならないというのは、通学しようとする子どもたちにとっては、大変負担になる毎日ではないかなと感じました。

やはり自然環境とか周りの状況は、今の伊久美に近いのは川根のほうに似通っているかもしれませんが、でも、子どもの体のことを考えると大津のほうの方がより安全に生活ができるかなと思います。

また、天候や災害のことを考えますと、保護者との連絡がすぐついて、保護者がすぐに送り迎えが可能な地域ということも一つ関係あるかなと思いました。ですから、安全面を第一に考えたときに、大津のほうの方が安心して子どもを通わせることができるのかなと思っています。

染谷市長

学校教育課長。

村田学校教育課長

先ほどの放課後児童クラブの利用している人数ですけれども、今現在、伊久美小では、ゼロ人ということであります。

染谷市長

ありがとうございます。

今現在の伊久美小学校では、放課後児童クラブ利用者はゼロ人ということでした。

柳川委員、お願いします。

柳川委員

ほとんど原委員と内容的には一緒なのですが、丁寧にこのように資料

を用意していただいて、特にまとめのページのあたりをよく見て精査をしますと、実際のところ、学校の規模は若干の差はありますけれども、地域の自然、地域の理解、学校の特色、このあたりを見ますと、実を言うと本当に差がなく、どちらというのがなかなか決めづらい状況にあると思います。

ですが、先ほどから出ております登校、もしくはそれに伴う子どもたちの安全や時間の配慮、そういうものを加味しますと、どうしても、大津小学校を選択されたほうがいいのかなどと思いました。

染谷市長

ありがとうございました。

このどちらがいいかということで、お話をいただいたところですが、高杉さんは御意見としてはいかがですか。

高杉委員

どちらがいいかというと、大津小が7割、8割ぐらいです。

川根小学校は先ほど原委員が言いました、ほかの小学校との合併が考えられない学校ですので、川根小学校の割合が2、3割というのが私の気持ちです。

染谷市長

ありがとうございます。

ここまで色々委員の皆様のお話を聞きましたけれども、教育長からは何かありますか。

山中教育長

先ほど委員の皆様から御意見がありましたように、色々な地域の特性といいますか、自然を活用してそこに魅力を感じて特認校に通いたいといった親御さんがいらっしゃるということを考えますと、どちらの学校を選ぶかというのは大変難しいなと思いますが、今皆様から御意見をいただいているように、登下校の時間ということも、やはり児童のために考えないといけない視点だと思います。

皆様が御意見をいただいたところから考えると、児童の負担を考えて大津小のほうがいいのかなど感じております。

染谷市長

ありがとうございます。

地域の協力や学校としての特色ある活動、受け入れ体制、本当に遜色はないのだけれども、子どもの安全安心な通学や登校時間のことを考えると、大津小学校のほうがやや優勢というような御意見をいただいております。

もう一つ、通学にかかる経費について、今、伊久美小学校は公費で全額負担しているのですが、このことの方針については継続という考え方がよろしいのか、それとも登校にかかるお金を親御さんに負担いただくということもあるかもしれません。このあたりのところの御意見がありましたら、お聞かせください。いかがでしょうか。

磯貝委員、いかがですか。

磯貝委員

私は、これは当たり前のことというように、公費と考えておりました。保護者の方の経費を使って賄うということは二次的なことなので、公教育においてはやはり基本的に公費で賄うというのが、やり方ではないかなと思います。

染谷市長

ありがとうございます。

高杉さんは、いかがですか。

高杉委員

私も公費でお願いしたく思います。もし自費の負担が多いと特認校の制度を利用できないとか、利用したくないという方もいらっしゃるかもしれないので、公費でお願いしたいです。

染谷市長

原委員はいかがでしょう。

原委員

私も、今現在伊久美に通っている子どもたちが、公費の負担で通学できている現状であれば、これからも継続していただければありがたいと思います。

藤枝の特認校を見ましたら、去年あたりは保護者の方の送迎によるということで、全部送り迎え保護者負担となっておりました。

島田市は子育てに優しいまちということで、大変有名だと思っておりますので、それも公費での継続ができればありがたいと思います。

染谷市長

ありがとうございました。

今、藤枝は親御さんの送迎が前提の特認校だというお話も伺いました。島田は、これまでも公費でやってきましたし、そこは私も持論はございますが、まだ柳川委員の御意見も伺っておりません。お願いします。

柳川委員

私も継続して公費負担でお願いしようと思っております。

染谷市長

ありがとうございました。

私自身も、特認校がどちらになるにしても、かかる経費については市が持つべきだと思っています。これまでも伊久美小学校にコミバスで通って来ていました。これからも、やはり子どもの通学について特認校に通うお子さんのところは公費で見たいなど、私が意見を言うってしまうのもいけないのかもしれませんが、教育長はいかがでしょう。

山中教育長

委員の方からも御意見がありましたように、今までも伊久美小学校につきましては公費で負担しているということがありますので、保護者の皆様の負担が増えないような形で、できれば公費負担のほうがいいのではないかなと思います。

染谷市長

ありがとうございました。

公費でこれからもやっていくということについては、全員の意見が最初から一致しているということで、通学にかかる費用については今後も公費で見ていくと、これは決定にしたいと思います。

この特認校制度について、今どちらの学校がふさわしいかというお話や、通学にかかる経費のことを皆様に御意見をいただきましたけれども、これ以外にも特認校はこうあるべきだとか、こういうことを期待して親御さんは子どもたちを通わせているのではないかと。あるいは、島田の教育全体についてもそうなのですが、今回の特認校を川根小学校か大津小学校かにしなければならないという話を聞いたときから今に至るまでの皆様方のお考えになったことや、大津のほうがよろしいという方が今3人と、そして川根も考えてほしいけれども通学の時間のことを考えると、大津のほうが子どもたちの負担が少ないのではないかとという御意見。今はそういう状況ですが、それ以外に何か御意見がありましたら、ぜひお願いをしたいと思います。いかがでしょう。

原さん、お願いします。

原委員

特認校になった場合に、色々な配慮事項が必要になると思います。や

はり学校としては、現状とは違う状況に置かれるわけですので、ぜひお願いしたいのは支援員の先生又は専門の先生を、加配していただきたいということをお感じします。

染谷市長

ありがとうございます。

支援員の加配というお話をいただきました。ほかには、いかがでしょうか、ございますか。

皆様は学校訪問等で、それぞれの学校の特色ある教育等も御覧になっていらっしゃるのではないかと思います。先ほど、原委員からも川根小学校はこれから先、複式になってしまうのではないかと心配があるとお話をいただきました。やはり、若い人たちが川根地域に住んでもらえる施策もしていかなければなりません。そして、川根は小規模になったとしても、中学校も小学校も残していかなければならない地域です。そこはしっかりと押さえておく必要があると思いますし、そこへの支援はこれからも続けていく必要があると感じています。

ほかには、どうでしょうか。磯貝さん、お願いします。

磯貝委員

私は幼稚園時代、山奥に住んでいたものですから、1時間ぐらいかけてバスで麓のまちまで通っていました。行くときは7時でした。帰りは2時か3時頃に帰ってくるのですが、幼稚園児だものですから、バスの中で寝てしまいます。ぐったりしてしまって、私の家の前がバスの終点だったのですけれども、そこで乗っているのは私だけなので、バスの運転手さんが寝ている私を抱っこして、家まで届けてくれたということも、何回もあったそうです。

今も伊久美小学校で、13人の子どもたちが通っているということを考えると、帰りにコミバスは空いているので、運転手さんもこの子はこのバス停で降りるということは分かっていると思うのですが、中には寝込んでしまって降りるべき停留場で降りられないという子が出ているのではないかなど、少し心配になります。

私の体験からなのですが、原委員もおっしゃっていましたが、子どもに対する負荷は相当あります。ですから、やはり短いほうがいいのだらうなというのを、私の体験からも感じておりますので補足させてもらいました。

染谷市長

今、伊久美小学校に通っているお子さんたちの登下校の様子で、学校教育課長、そのような話は聞いたことはありますか。子どもたちが、バスで眠ってしまうとか。

村田学校教育課長

寝てしまうというような、直接そういったことまでは聞いたことはないですが、やはり、帰りは非常に疲れているということはいくつか聞いております。

染谷市長

おっしゃるとおりだと思います。私は自分の話で申し訳ないのですが、娘を静岡の中学校に通わせましたが、やはり眠ってしまって、目が覚めたらここはどこかが分からないので迎えに来てくれという電話をもらったことが何回かありました。子どもはちょっと疲れしたり緊張したりしていると、そんなこともあるかなと思います。

ほかには、いかがでしょうか。高杉委員、お願いします。

高杉委員	すみません、質問です。7月、8月に大津、川根で総合教育会議の報告をすると、先月もらった資料に書いてあるのですが、今回説明やアンケートを実施した地域と保護者に説明をするということで、よろしいですか。
染谷市長 村田学校教育課長	学校教育課長。 アンケート等については、各学校に事前にとったところでお送りをしております。 この後の予定になるわけですがけれども、この総合教育会議のことを、各学校にこのような話合いがされたということで報告をしていくつもりでおります。
染谷市長	分かりました。学校教育課長、もう一度確認しますけれども、各学校に、今日の総合教育会議の内容を御報告するという事は結構ですがけれども、もう一つ、この特認校をどちらにするかということ、最終的に決める場はどこになりますか。
村田学校教育課長	今日の会議の内容を受けて、再度私たちのほうで案を考えさせていただきます。最終的には教育委員会の定例会の議案として提出をさせていただき、そこで決定をしていくというふうに考えております。
染谷市長	今日は事前の開かれた場で、大勢の傍聴人の方たちもいる中で我々の議論を聞いていただき、そして、この議論を踏まえて、また学校教育のほうで素案をつくり、教育委員の定例会に議案としてかけさせていただいて、教育委員の皆様方の御協議の中でどちらの学校にするかということの最終決定をさせていただく。そのような段取りにしたいと思いますが、いかがでしょうか。それでよろしいですね。
村田学校教育課長	この7月、8月で各学校等にも報告しながら、9月に予定として、通学調査審議会に諮問をし、答申を受けていきたいと思っております。
染谷市長 村田学校教育課長	そうしますと、教育委員会での議案が上がるのは、その後ですか。 はい、そのとおりです。
染谷市長	9月に通学調査審議会では協議をしていただいていたということなのですね。
村田学校教育課長	そうです。
染谷市長	分かりました。今の話を踏まえて、また何かお聞きになりたいことや、御意見がありましたらお願いします。
柳川委員	柳川さん、お願いします。 質問ですが、アンケートの中に特認校決定についての意見要望というところに、誰でも選択できることは大切だが利用基準を明確にすべきという一行がありました。 これは、利用基準は明確になっていますし、これを書かれた方がどういうつもりで書いたのかなと逆に疑問視するところでもありますけれども、実際のところこの特認校の関係については、市民を含め一般のほかの学校の保護者等々にどのような形で周知をしていくのかを教えてください。
染谷市長 村田学校教育課長	学校教育課長、お願いします。 令和6年度の募集等については、まず「広報しまだ」、そしてホームページ

ジに掲載をしていきます。令和5年7月に広報紙に掲載をして、8月下旬には説明会を行います。9月には学校を開放して見学会等を行っていきます。

染谷市長

そうしますと、来年入学を予定する人たちへの説明は、どういう形になりますか。

村田学校教育課長

来年の子どもたちについては、今年の7月に広報紙に掲載して、そして8月に説明会等を行っていきます。

染谷市長

しかし、まだ7月、8月の段階ではどちらになるかは分からないですよね。

村田学校教育課長

はい。

染谷市長

どちらかになる可能性があるという説明をされるわけですか。

村田学校教育課長

そうです。

染谷市長

分かりました。最終的に教育委員会の審議で議事として上がって、決定を受けるのは、10月以降ということでしょうか。

村田学校教育課長

はい。

染谷市長

ですから、来年入学を希望する方々には、今協議中で大津小学校と川根小学校の2つが挙がっていますと。今日の内容などを伺うと、大津小のほうにしたいという方の御意見が多かったですけれども、最終決定はまだこれからだというふうに、その場では御説明申し上げることになると思います。

教育長、何かありますか。

山中教育長

ございません。

染谷市長

ほかには、いかがでしょうか。

では、私からも一つお伺いさせてください。地元からも受け入れの希望があるということでしたが、そのことについて説明をしてください。学校教育課長。

村田学校教育課長

各候補校からの受け入れの様子でしょうか。

染谷市長

はい。

村田学校教育課長

両校とも、一番心配していることは、やはり子どもの人数が少なくなっているというところで、自校の人数を確保していく中、存続という意味でそれぞれのところでの候補校として受け入れがあります。

もう一つは、子どもたちの数が増えることによって人間関係が広がる、あるいは視野が広がるということ、そういう意味でも受け入れの気持ちがあります。

3つ目としては、やはり地元の子どもたちについても地元の良さというものを再認識していくという意味で、他地区から来ることについての意義を感じていると、そのようなことを主な理由として聞いております。

染谷市長

ありがとうございます。地元からはどうですか。

例えば、大津小学校の学校評議委員会では、大津小学校にぜひ受け入れたいということをお話し合われたということをお伺いしました。

地元の受け入れの要望について、要望書という紙ではないのですがけれども、御意見としては伺っています。そうした思いが地元にあるということも、ぜひこの場で皆様にお伝えしておきたいと思っておりました。

山中教育長

教育長、お願いします。

地元から要望があったということにつきましては、私のほうに大津の元自治会長様、そして現在の学校運営協議会の委員長様から、大津小の方でぜひ受け入れたいといったお話がありました。

ただ、文章として要望書という形では出ておりませんが、そのような形でお話は伺っております。

染谷市長

いかがでしょうか。具体的な御意見が出てきて、今後の進め方についても、皆様に御納得いただいたかなと思います。さらに突っ込んだ御意見がありましたら、お願いします。いかがでしょう。

ほかに御意見がないようでしたら、少しまとめのほうに入りたいなと思いますがよろしいでしょうか。

今日はありがとうございます。様々な御意見をいただき、心から感謝申し上げます。本日いただいた御意見をまとめますと、令和6年度に開校する特認校の方向性としては、決定ではないけれども、大津小学校のほうで、登下校の時間等も含め子どもへの負担が少ないのではないかとというような御意見を、たくさんいただきました。

そして地域の協力体制として、あるいは学校の特色としては両校遜色のない学校であるということでもございましたので、やはり今後決めていくときには、子どもたちの負担や、子どもたちにとっての環境ということも配慮して、今日のところは大津小学校にという御意見を多数いただきました。

本日出された方向性を基に教育委員会の中で話し合いを進めて、最終決定していただけたらと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

今後もこの教育会議において、意見交換をしながらテーマについての理解を深めて、みんなで共通理解をしていく、そういう場になればありがたいと思っております。

今日は、予定より少し早いので、この件以外にも、ぜひこういうことも総合教育会議のテーマとしてほしいとか、あるいは、このところ考えるところがあるのだけれども、ここはどうだというようなことがありましたら伺いたいと思っておりますが、いかがでしょうか。

磯貝さん、お願いします。

磯貝委員

せっかくの機会ですから、ヤングケアラーのことについて、事務方にお伺いしてもよろしいでしょうか。

静岡県の調査が昨年あったのですかね。この間発表されました。県下の小学生の5年・6年、中学校、高校の全員というふうに聞いています。23万ぐらいの生徒を調査としたということでした。

これは平均4.6%の生徒が、ヤングケアラーだということが分かったという新聞記事を見たのですけれども、これは島田でいうと、例えば小学校と中学校を合わせると、今は7,400人ぐらいの子どもがいると思います。単純計算で4.6%を掛けると、320～330人ですかね。やはり市内でそれぐらいの子どもたちがヤングケアラーとしてどうもいるらしいと。例えば、これが静岡県の調査だと中学生は5%らしいですね。ですから、

例えば400人から500人いる、例えば一中、二中クラスの中学校だと、大体24～25人いる勘定になるのです。

このヤングケアラーの問題は、とても難しい問題だと思っています。調べるに調べられないというところもあるようですが、これは教育委員会だけじゃなくて、ほかの部署ともコラボが必要だと思っています。何か教育委員会としてやるべきことがあるように私は思いますが、この問題についての方向性といいますか、どこら辺から手をつけようとしているのか、もしあるのであれば、教えていただければありがたいです。

染谷市長
村田学校教育課長

学校教育課長。

これについては、福祉課と連携をしながら進めていこうと考えております。その把握については、今、各学校の生徒指導から上げられてくる、生徒指導の内容等からヤングケアラー等の対象となる子どもがいるかどうかを把握しながら進めております。なかなか把握が難しいのは事実です。そのところが明確になったところで対応していくということを考えております。

染谷市長

ほかには、いかがですか。よろしいでしょうか。

今年度は、あと2回ぐらい総合教育会議を予定しております。もちろんテーマがあれば、それ以上の開催も考えておりますが、その中にこうしたヤングケアラーの問題でありますとか、皆様方が関心を持ち、かつまた広く市民の方々にも知っていただきたい、この協議の場を通して島田の教育についての一滴と言いますか、波紋の広がるような議論ができればありがたいなと思っております。よろしいでしょうか。

山中教育長

今後のテーマなのですけれども、先日の議会のほうで家庭の日についての考え方ということがありましたので、ぜひ、この総合教育会議の中で、家庭の日の在り方について少し検討をいただければというふうに思いますが、いかがでしょうか。

染谷市長

先般の6月議会では、一般質問で家庭の日の在り方についても質問が出ました。この家庭の日というのは本来どういう目的で、そして島田もずっと続けてきているのですが、それも今後継続していくべきなのかどうかということも含めて、皆様の御意見を伺いたいなと思っております。これはこの次のテーマとさせていただきたいと思います。

では、ほかにはないようでしたら、事務局にお返ししたいと思います。御協力いただきありがとうございますございました。

今村市長戦略部長

ありがとうございました。

以上で、本日の議事は全て終了いたしました。次回の予定につきまして、今もお話がありましたけれども、今回とは別のテーマで、ヤングケアラー、あるいは家庭の日、そういうものを含めて検討し、10月と2月頃にそれぞれ開催を予定しておりますので、よろしく願いいたします。

それでは、以上をもちまして、第1回総合教育会議を閉会させていただきます。本日はお忙しいところありがとうございました。

閉 会 午前11時10分